

令和7年3月

【青森市教育委員会】
校務DX計画（案）

本市では、クラウド型の校務支援システムを平成30年度に導入しており、教育情報ネットワーク環境において、児童・生徒の個人情報等を取り扱う「校務系ネットワーク」、児童・生徒が教育活動で利用する「学習系ネットワーク」、学校ホームページの編集や学校の代表メールの送受信をする「校務外部接続系ネットワーク」、そして、事務用品の支払い等の事務処理を行う「財務系ネットワーク」の計4つのネットワーク環境に分離されており、インターネット経由で児童生徒の個人情報等にアクセスすることができないよう、セキュリティ対策を行っている。

教職員は、校務支援システムのグループウェアやシステム機能を活用して、学校での伝達事項や教務、保健、学籍、成績管理等の情報をデジタル化し、教職員間で幅広く利用しているほか、令和6年度に導入したデジタル採点システムを活用し、業務の効率化を進めている。

また、青森圏域連携中枢都市圏において、圏域の全市町村に統合型校務支援システムが整備することにより、本市を含めた圏域の教職員の人事異動に伴う環境の変化による負担が軽減されることとなり、また、圏域で統合型校務支援システムを統一することにより、学校や教職員間における連絡や転校処理などがシステムで行うことが可能となり、教職員の負担軽減がさらに図られるため、これらについて圏域の市町村と連携しながら取り組んでいく。

さらに、学校環境のDX化を推進するため、学校、保護者、教育委員会間の連絡やアンケートなどにクラウドツールを活用することで、電話・FAXの使用や紙の削減を行い、教職員の労力を削減することに取り組みながら、次世代校務DXの導入についても検討を行っている。